

会 議 録

会 議 名	令和5年度第2回丸亀市放課後子どもプラン運営委員会
開 催 日 時	令和6年3月7日 10:00～11:30
開 催 場 所	マルタス ROOM4
出 席 者	出席委員 本荘 勝・奥田 勉・津野 洋美・原田 伸二・高橋 勝子・ 金丸 繁利・野崎 晃広・谷本 智子・窪田 美由紀・塩田 康広 欠席委員 奥澤 日登美・香川 真実 事務局として出席した者 教育長 末澤 康彦・部長 窪田 徹也・ 課長 吉野 隆志・副課長 土井 節子・ 担当長 富士川 美由紀・主任 野口 耕平・ 主事 渡邊 優花 傍聴者 なし
協 議 案 件	(1) 令和5年度丸亀市放課後子どもプランの現状と課題について ①放課後児童健全育成事業（青い鳥教室）について ア) 令和5年度の実施状況 イ) 城坤・城東青い鳥教室施設整備について ②放課後子供教室事業について
議事の経過及び 発言要旨	ー開会 午前10時ー <ol style="list-style-type: none">1. 教育長あいさつ2. 委員長・副委員長選任3. 委員長あいさつ4. 議事
委員長	①放課後児童健全育成事業（青い鳥教室）について事務局より説明をお願いしたい。
委員長	【事務局説明】 まず、青い鳥教室について意見等あれば、発言いただきたい。
委員	青い鳥教室に関しては、毎年、待機児童はいないと聞いているが現状として変わ

事務局	<p>っていないか。</p> <p>また、幼児保育に関しては、誰でも保育という施策が進められており、幼い頃から子どもの保育の場が整備されていくと、保護者は仕事を始める。そうすると、子どもたちが小学校に上がっても親の環境は変わらず、仕事をしている保護者が大半を占める。現在、青い鳥教室には1,500人の在籍児童がいるが、まだ1,500人だと思う。今後は、ほとんどの家庭の親が仕事をしている状況になるため、これから先の児童数の見通しはどのように進めているのか。</p> <p>待機児童については、現在も発生していない。ただ、城坤校区等定員に迫っている教室もあるため、随時施設の整備を進めたい。昨年度は、城南校区で新入生の60%程度が青い鳥教室を利用している事例もあり、児童数は全体として減少しているが、青い鳥教室の利用児童は増えている印象があり、今後もその傾向が続くと考えている。施設の整備に加えて支援員の確保についても努めていきたい。</p>
委員	<p>きちんとした数字をもとに施設整備を進めているのか。在籍児童数の推移を見ると10年間で倍になっている。</p>
事務局	<p>丸亀市こども未来計画の児童数の予測をもとに今後の施設整備の計画をたてており、令和7年度から新しい計画のもと見直しを行い、進めていきたい。</p>
委員長	<p>南方の地区は児童が減ってきていることが予想できるが、比較的増えていたり維持している校区は把握しているか。</p>
事務局	<p>児童数が増えている校区は、城坤・城南校区あたりだが、南方の地区でも例えば飯山北校区や岡田校区については、ニーズが増えてきており、児童数を維持している校区もあるため、ばらつきがある。</p>
委員	<p>先ほど10年で倍の人数になっているとの話があったが、低学年だけの受入れから高学年まで全学年に受入れが始まったところもあり、大幅に在籍児童数が増えている。</p> <p>現状、待機児童なく受入れを行っているが、支援員が不足しており、教育委員会に協力いただき、賃金については非常に待遇良くしていただいているが、それでも現状として集まらない。賃金面だけでなく、業務の問題もあると思うがパソコンの導入により事務作業の軽減を進めている。少しでも多くの支援員を集めて安定的な保育環境をつくっていきたいと考えているが、現状として苦労している。</p>

委員長	<p>現在、直営で児童クラブを実施していた市町村が徐々に民間委託へ移行しているが、民間に委託しても人材の確保が難しい状況である。支える人自体が減ってきていることから人材の奪い合いになる。</p> <p>また、業務に質を求められると学校と同様に業務が増える。青い鳥教室に求めるハードルを上げれば上げるほど支援員が集まってこないという問題がある。現場としては、どう感じているか。</p>
委員	<p>少し前であれば、学童のシステムが時間が来たら自分で帰ることができ、出欠に関しても簡単なものだった。安全に預かるだけで児童を見ていればいいとの話だったが、子どもを預かる上で育成方針等を考え、見守っていくことになった。事務作業も多くなったが昨年度からのパソコンの導入により少し楽になった部分もある。</p> <p>出欠に関しても、来年度からは出欠連絡アプリ LEBER を使用し、学校と連携して活用を行い、これから様子を見ていくところだが、なぜこんなに支援員が集まらないのかが分からない。現在 12 名ほど不足しており、それをシルバーさんが補っており、年齢を重ねているのに一生懸命頑張ってきてくれている。</p> <p>城東校区に関しては、すでに半数の新入生の申込みがあり、多くなった印象がある。建物に関しては、令和 8 年度に前のプレハブを移設する予定だが、そこに収まるのかということも考える。</p>
委員	<p>今までは、子育て経験のある女性を求めているところがあったが、現状難しい状況であるため、子育て経験がない場合でも子どものサポートに関りたいという思いがある方や、場合によっては、男性の方にも募集をかけていきたいと考えている。</p>
委員長	<p>子ども達の将来を考えているが支える側がないという問題については、社会全体が高齢化してきておりその高齢者が子どもたちを支えている現状があるため、要件を組み直していくべきだと思う。</p> <p>例えば、大学や短期大学の新卒者に募集案内を広げて、育成プログラムにより巡回指導を行うことまでできれば、多少は効果があるかもしれない。</p> <p>支える現場に人がいないため、どこの業種も人材の奪い合いになる。やり方を変えない限りは、青い鳥教室のニーズは高いがそれを支えられない状態になり、他県では保育士がいないため閉所していることも多々あるため、同様の状態が青い鳥教室でも起こる可能性がある。</p>

委員	<p>学生にアプローチするのであれば、保育士の免許を取得している場合でも、デイサービス等の職場に行きたいと思っている学生もいるため、きちんとした職場になることをアピールできればよい。</p> <p>現在は、パートタイム労働なのか。時間や処遇も関係してくると思うが、雇用形態を変えることはできないか。</p>
委員長	<p>施設を整備しても動かす人がいなくなるのは目に見える話であり、メインの支援員に関しては、雇用条件を整えていかないと新しい人を集めてこれないと思う。</p>
事務局	<p>数年前、月給制の職員採用について検討の段階に至ったことはあったが、現在、勤務時間が午後2時から7時までの5時間であり、月給制の職員は何時から何時まで働いてもらい、どういった業務をするか等を検討するなかで、その時点では、採用に至らなかった経緯はある。</p> <p>若い世代に月給で働いてもらうためには通常の保育以外の時間にどういった業務があるのかを考えたい。人材を集めることが理想的な形だとは思う。</p>
委員長	<p>人が集まらない現状は、今の状況だけでは打開できないと考えるため、人口の自然減をある程度見越して事業を縮小し、効率化していくという話になってしまうため、そうならないためには是非とも検討していただきたい。</p> <p>②放課後子供教室事業について事務局より説明をお願いしたい。</p> <p>【事務局説明】</p> <p>放課後子供教室についてご意見等あれば、発言いただきたい。</p>
委員	<p>青い鳥教室と同じような傾向で、低学年の参加率は高いが高学年の参加率は低い。今まで作物を植えたりすることが活動の中心だったが、スタッフの高齢化によりしんどいとの話があるため、減らしていく予定としている。10年ほど前は、潮干狩りに行ったりこどもの国に行ったりしていたが、現在は行くための交通手段がなく、市のマイクロバスが土日使えないことがネックになっている。そういった問題もあるが、来年度は猪熊美術館を見る企画を考えている。</p> <p>親子で体験することを目標にしているため、企画もなるべく親子で参加できるものと考えている。先ほどの青い鳥教室の支援員と同じく、自分たちからすると60代の人で若い世代のため、参加してくれた保護者の方にも呼びかけてはいるが難しい現状があるため、来年度はもう少し、呼びかけを積極的に行ったり、新しい企画を</p>

委員	<p>考えていきたい。</p> <p>日常的に活動を行うと、子どもたちが来ることを楽しみに来てくれているため、子どもたちが主体的に何かをしたい気持ちをフォローしてあげると、とても喜ぶ。</p> <p>子供教室は体験型の居場所のため、様々な体験ができ、教室ごとに色々なカラーがあり、いいと思うが、教室がどこに主軸を置くか、何のためにするかを考え、開催をすればよいと思う。</p>
委員長	<p>例えば、30 人程度児童が集まるだろうと企画したものが実際は 10 名程度しか集まらなかったこと等はよく起こるのか。</p>
委員	<p>7 月音楽を楽しむ会では、大正琴の演奏を一緒にすることになり、体験として全くしたことのない企画を行えたことは良かったが、参加児童が少なかったため、こちらの思いばかりではなく、子どもが何をしたいかを考えなければいけないと少し反省した。</p>
委員長	<p>広域的に募集を行ったり校区以外に呼びかけを行うネットワークを教育委員会で作れないだろうか。市内で 9 教室あるので市全体でうまく使えるように校区だけではなく、他校区も参加可能にしてみてもどうか。現場としては、参加人数が多い方がやった甲斐があると思う。</p>
委員	<p>子供教室に関しては、事前登録制ではないのか。</p>
事務局	<p>基本的には、年間活動の教室は登録制にしており、長期休暇のみ活動している教室は長期休暇ごとに募集をかけている場合もある。すでに他校区の児童が参加している実績がある教室もあるため、他の教室でも同様になればよいと考える。</p>
委員	<p>自由に参加できるような形がいいと思う。子供教室の活動以外にも市内全体に募集をかけてワークショップの体験活動を月 1 回行っているが、なかなか参加が増えない現実がある。ひとり親家庭は無料で参加できることをアピールしても、土日仕事をしている保護者が増えている現状があるため、子育て家庭の生活状況の変わり具合も参加児童数に関係していると思うが、間口を広げることはいいことだと思う。</p>
委員長	<p>各地区単独で行う教室と合わせて市内全域でまわせるように制度づくりをおこなったり、バスの使用についても考えたうえで地域の方々に行っていただいている活動が持続できるよう、予算の組み方等も検討していかなければならない。</p>

委員	<p>地域の活動として報告しておきたいことが3点ある。</p> <p>1点目は、敬老の日の際に中学生がメインでお手伝いに来ていたが、受付や案内を行い、お年寄りに関してよかったと喜んでもらった。子ども達にできることを課題として提案すれば、しっかり楽しみながら行ってくれるため、来年度も実施していきたい。</p> <p>2点目は、10月に防災訓練を行った後に炊き出しを行いたいと城西高校から話があり、炊き出し訓練をコミュニティの食改の方と一緒にいった。高校生も経験としてよいものになったと感想を受け、今後は災害が起こったときの避難所の運営にも高校生に加わってもらう予定にしている。</p> <p>3点目は、コミュニティセンターの健全育成部会が12月にクリスマス会を企画しており、児童に声をかけると企画自体を任せてほしいと言われ、企画を考えることや準備、当日の運営も小中学生が先導して行ってくれ、大人は周りでサポートで見ているだけだった。子ども達が司会等も全部行ってくれ、子ども達のエネルギーに驚かされ、自分たちでは想像できないアイデアが生まれ、感心した。</p> <p>今後は、子どもたちを喜ばせることではなく、子ども達と一緒にあるという観点から企画するという方針になった。</p>
委員長	<p>大人が口を出さずに実施したことに意味があると思う。子供教室の活動を考えると子ども達の体験の場であるため、大人が直接的に関わるより間接的に関わり子どもたちが自発的に動くようになる好事例ではないかと思う。企画の段階で子ども達に意見聴取できる機会を設けると、企画のミスマッチを防げるかもしれない。</p>
委員	<p>秋に古民家でコスモス祭を行い、小学生から大学生まで参加してくれた。学生と地域のお年寄りとの関りの機会ができ、今後も続けていきたいと考えている。</p>
委員	<p>保護者が仕事のため、子どもは朝学校に来るときも鍵を閉めて家を出て、誰もいない家に帰って鍵を開けるということを聞いていると、子ども達の心は育つのだろうか考えるが、社会がそういう形になっている部分は仕方ない部分もあるため、青い鳥教室についても多様なニーズが生まれているんだと思う。</p> <p>子供教室については例えば、別の地域に派遣してもらうことができれば、市内の別地域の子どもが参加することができる。垂水校区の場合バスを出していただいた場合でも、時間や距離の問題もあり企画に参加できないことがあったが、仮に来て</p>

委員	<p>いただけるのであれば、他の校区にも広げていけないのではないか。</p> <p>子育て世代が求めている居場所はそれぞれ違うため、様々な種類の居場所があればよい。そんな中で、企画や面白いものにまず参加してもらうことが一番最初の始まりであり、その横の繋がりから運営に携わる方がいるかもしれないので、場を守りながら、新たに関わる人を巻き込んで居場所がつかれるようになればいいと思う。</p>
委員	<p>現在、子ども会の運営に携わる仕事をしているが、その数がものすごく減っており、子ども会としての活動が十分できていないという課題に直面している。子ども会は異年齢の子ども達の関りという部分が大きいと思うが、この会に参加して地域で様々な子どもたちが体験活動をしているのを見ると、子ども会という形にこだわらなくてもいいと思った。子供教室であったり、それぞれ運営の形があるため、引き続き何らかの形で支援し、一緒に育てていきたい。</p>
委員長	<p>今までは、財政的に補助してほしい等の要望が多かったが、現在は急激な人口減に伴い、働く人たちを奪いあう領域に突入しているため、どうやってその居場所を守っていくかという答えの見えない議論だった。</p> <p>現状的に言うと、予算の立て方、運営方法、情報共有の方法等を含め、市で検討いただき、子ども達に投げかけると子どもたちのやりたいことを生き生きと行うことが一番クオリティーの高い活動であるため、それが実現できるよう事務方では検討していただきたい。</p>
教育長	<p>様々なご意見をいただき、ありがとうございます。皆様の意見を拝聴しながら、これから子ども達をどう育てていくかということは、ひとつ前には子どもをどうとらえているかということだと思う。青い鳥教室や子供教室、保護者、地域も皆が同じ思いでないと理解を得ることが難しく、人材も集まらないと思う。そういった意味で、「他を想い、自らを磨き、共に伸びる」という教育方針では、地域社会にも一石投じたいとの思いもある。</p>
事務局	<p>本日の会を終了したい。皆様お疲れ様でした。</p> <p>－閉会 午前 11 時 30 分－</p>